

第三十二條 削除

第三十三條 各府縣ハ小學校教員ニ養生センカ爲ニ師範學校ヲ

設置スヘシ

第三十四條 公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ試験ノ後

卒業證書ヲ與フヘシ

第三十五條 公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業
證書ヲ請フ者アラハ其學業ヲ試験シ合格ノモノニハ卒業證書
ヲ與フヘシ

第三十六條 削除

第三十七條 教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上タルヘシ

但シ品行不正ナルモノハ教員タルコトヲ得ス

第三十八條 小學校教員ハ官立公立師範學校ノ卒業證書ヲ有ス
ルモノトス

但シ本文師範學校ノ卒業證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ヨ
リ教員免許狀ヲ得タルモノハ其縣ニ於テ教員タルモ妨ケナ
シ

第三十九條 文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡
視セシムヘシ

第四十條 公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ
拒ムコトヲ得ス

第四十一條 府知事縣令ハ管内學事ノ實狀ヲ記載シテ毎年文部
卿ニ申報スヘシ

第四十二條 凡ソ學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルコトヲ得ス
但シ小學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條 凡學校ニ於テ授業料ヲ収ムルト収メサルトハ其便
宜ニ任スヘシ

第四十四條 凡兒童ハ種痘或天然痘ヲ歴タルモノニアラサレハ入學スルヲ得ス

第四十五條 傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルヲ得ス

第四十六條 凡學校ニ於テハ生徒ニ体罰(毆チ或ハ縛スル類)ヲ加フヘカラス

第四十七條 生徒試験ノキハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルヲ得ヘシ

第四十八條 町村立學校ノ教員ハ學務委員ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第四十九條 明治十四年六月廿八日第三十五號布告ヲ以テ本條中俸額ノ下旅費ノ二字ヲ追加ス

町村立小學校教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第五十條 各府縣ハ土地ノ實況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又專門學校農學校商業學校職工學校等ヲ設置スヘシ

第八章 徵兵令

○明治十六年十二月二十八日第四十六號布告

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別テ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四個年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常

備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則

ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラズ

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校(小學校ヲ除ク)ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期未タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ズ平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキコ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條

左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主
第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス
第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問

ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏(判任以上)及ヒ戶長

第二項 教導職(試補ヲ除ク)

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

第二十二條 左ニ掲グル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戶主及ヒ附籍戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子

承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齡六十歳未滿ノ戶主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戶主ヲ罷メ年齡六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戶主及ヒ其戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシ

テ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七項 年齢六十歳未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼ガス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五箇年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項（陸海軍生徒

ヲ除ク）第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自届出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス
府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體検査終リタル後兵役ニ適
ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番号ヲ定メ抽籤セ
シム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ八撰ヲ以テ一名乃至三名ノ
總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應ジ籤札ニ兵種番号ヲ記シ
籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名
ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ
舉ル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ氏名
番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤
トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充
ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵
員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八
條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齢
滿二十七歳迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十
八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及
ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者ハ年齢滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫

備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六
個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルト
キ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スル
トキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歳ト爲ル者ハ
其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主(本人戸主ナレハ自
身以下戸主トアルモノ皆同シ)ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生
ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歳ト爲ル者ハ
其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍
ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シ

タルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ
但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條
第二十一條ニ當ル者其事故止ニ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異
動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月
十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後
翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届
出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應ゼント
欲スルトキハ其地ニ居住スル者(戸主)ヲ以テ證人ト爲シ八月
十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ
届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給

六

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戶長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タズ徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日(第四十一條ニ掲クル者ハ入營ノ當日)ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ度數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲アル者ハ一月以上一年以上ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

軍師管		國名	
第	第	第	第
武藏ノ内	芝田區	日本橋區	京橋區
牛込區	小石川區	本郷區	下谷區
横濱區	荏原郡	南豐島郡	北豐島郡
北足立郡	東多摩郡	西多摩郡	南多摩郡
久良岐郡	橘樹郡	都筑郡	新坐郡
高麗郡	比企郡	横見郡	秩父郡
那珂郡	賀美郡	大里郡	旛羅郡
男衾郡	相模甲斐	伊豆上野	信濃ノ内
小縣郡	更級郡	上高井郡	下高井郡
埴科郡	上水内郡	下水内郡	
武藏ノ内	本所區	深川區	南葛飾郡
	北葛飾郡	南埼玉郡	北埼玉郡
			安房

軍師管		國名	
第	第	第	第
上總	陸前ノ内	陸前ノ内	越後
下總	仙臺區	柴田郡	佐渡
常陸	名取郡	磐城	
下野		岩代	
		羽前	
	陸前ノ内	宮城郡	
	玉造郡	遠田郡	
	黒川郡	加美郡	
	栗原郡	登米郡	
	志田郡		
	陸中	陸奥	
	陸奥	羽後	
	尾張ノ内	名古屋區	
	海東郡	愛知郡	
	海西郡	知多郡	
	信濃ノ内	東筑摩郡	
	上伊那郡	西筑摩郡	
	下伊那郡	南安曇郡	
	諏訪郡	北安曇郡	
	三河	遠江	
	駿河	伊勢	
	志摩	紀伊ノ内	

徴兵令

第 三		第 七		第 第	
五	第 六	七	第 第	第 第	第 第
南牟婁郡 北牟婁郡	尾張ノ内 丹羽郡 東春日井郡 西春日井郡 美濃 加賀 能登	越中 飛驒 越前	攝津ノ内 北區 東成郡 住吉郡 紀伊ノ内 和歌山區	名草郡 海部郡 那賀郡 伊都郡 山城	有田郡 日高郡 東牟婁郡 西牟婁郡
		大和 河内 和泉 近江 伊賀	攝津ノ内 豐島郡 能勢郡 八上郡 島下郡		

第 四		第 五		第 六	
八	第 九	第 十	第 十	第 二十	第 二十
武庫郡 川邊郡 播磨 淡路 若狹 丹波 丹後	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	阿波 讚岐 伊豫 土佐	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對島	

第七

渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝
釧路 根室 千嶋

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス徵兵ハ現今沖繩縣
ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣
管下函館江差福山三個所ヲ限り之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セ
シム

第三卷 條例

第九章 古物商取締條例

○明治十六年十二月二十八日第五十號布告

第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、潰金銀
ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋鼈甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業
ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據ス
ヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於
テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ
且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコト

古物商取締條例

ヲ得ス但身元詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癩者及ヒ雇人（雇主ノ家ニアル者）ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ証明スル証人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ

受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ヨ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫

書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十

條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

- 一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀(徽章番號縞柄模様損所ノ類ヲ云フ)價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ
- 二 日出前日歿後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス
- 三 營業者ニアラザル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルト

キハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知リ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラレ、コトアルヘシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トテ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿へ届出ツヘシ

第十章 郵便條例

○明治十五年十二月十六日第五十九號布告

第一章 郵便物

第一條 每郵便物別テ四種ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書

三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、罫紙、營業品ノ見本及雛形

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第

一種郵便物トナスヘシ

第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一 截斷又ハ破却シタルモノ

一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 紙ニ貼付シタルモノ

一 紙ニ貼付シタルモノ

一 葉ヲ折り之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ証シ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ
但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ月日ヲ印刷シ冊子トナサ
スシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘ
シ

第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スル
トキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スル
モノニ限ルヘシ

第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第
一種郵便物トナスヘシ

第十一條 異種ノ郵便物ヲ合装スルトキハ總テ其種類中高額税
ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此
限ニアラス

第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便物ヲ封皮帶紙ノ重量ヲ合算スル
モノトス

第十三條 第三種第四種郵便物 營業品ノ見本
及雛形ヲ除シ 一個ノ重量三百
目ニ超過スヘカラス

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過ス
ヘカラス

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ
超過スベカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス
一 毒藥、劇藥、流動物、流動爆發燃燒腐敗シ易キ物、字化スヘキ
物、動物、植物、及鋒刃器、陶器、等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便
物ヲ損害スヘキ物品
一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫真及物品

一金銀、寶玉

一貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便税

第十七條 郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量二匁毎ニ 二匁未滿 一錢

第二種郵便物 一葉 一號一個重量十六匁毎ニ 十六匁未滿 亦同シ 一錢

第三種郵便物 二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ 十六匁未滿 亦同シ 一錢

第四種郵便物 重量八匁毎ニ 八匁未滿 亦同シ 二錢

第十八條 郵便税郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ

納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同

般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス

第十九條 納税ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書帶紙ノ税額印面

ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ

第二十條 郵便税ニ過納アルモ已ニ其税額印面ニ消印シタル後

ハ之ヲ還付セズ

第二十一條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二

倍ヲ徴收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスニテ差出人ニ還付スルトキハ其差

出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徴收スヘシ

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハヌ差出人ニ

還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ差立前ニ係ル未納税

又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スル亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差

出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ル
ヘシ未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ
徵收スヘシ

第二十五條 未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ
郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ
其証ヲナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書帶紙

第二十六條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ日本政府ニ
於テ發行セシモノタルヘシ

第二十七條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便稅納ノ証トナシ又郵
便切手ハ書留手數料并別配達料納濟ノ証トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額
ニ不足ヲ生スルキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタ
ル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノ
ニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請
求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ
受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣
下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮
葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取リ郵便切手ニ

代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條 郵便切手并封皮葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ
及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レモ其未ダ使用
セサルモノニ限リ二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシ
ムルトキハ驛遞局ニ於テ十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル
郵便切手并封皮葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一
減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便、郵便爲替及貯金ノ專務ニ關スル郵便物ハ其
稅ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區
役所并以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限

ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文
字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏
名若シハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ
差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又
ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受

授テ証スルモノトス

第四十五條 書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラズ六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ

郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル

受取証書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受

取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取証書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハズ

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條 郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書寄宿所ノ類以下之ニ倣フアルモノハ其

肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラズ免稅郵便物亦同シ但市外別配達料船貨幣遞送配達費ニ

追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納

メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第一百五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由テ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨ

リ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差立人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人ヲ受授スヘカラス

第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託ヲ受クヘカラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

タル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ任セズ

第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セザレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所属ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若シハ其代理者ハ遞驛局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セザル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セザル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若シハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラル

トキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別テ二類ト爲ス

一 市内 郵便局所在地 別配達

一 市外 郵便局未設地 別配達

第七十六條 市外別配達料ハ東京京都及大坂ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税并別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルテ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴收スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ舢艫料受取人ヨリ徴收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ舢艫料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ船船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料船船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函
第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セズ私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入ルノシテ其住所ニ配達スヘシ
第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ
第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ
留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示ス
ヘシ

第八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四

所以上封印ヲ捺スヘシ

第十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入

郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ証トシテ

受授スヘシ

第十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル

員數証書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印

判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷

シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證
書ヲ受領スヘシ

第十四條 本人ノ其封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ

以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印

ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第十五條 貨幣封印郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ

郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便物トシ

テ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定

アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ

差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及配達賃ヲ受取人ヨ

リ徴收スヘシ

第十六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルト

キハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徵收スヘシ

第百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徵收スヘシ

第百十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ属スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ郵便局ハ之ヲ償フノ責ニ任セズ

第百二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實証アルモノ、外

約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章 郵便沒書

第百二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス

第百二十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ没存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸証書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第二百二十六條 沒書チ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ沒入スヘシ

第二百二十七條 沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸証書ハ手數料ヲ徵收セスト難尼貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第二百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出入タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ但驛遞局ニ於テ証人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第二百二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第三百十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第三百十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第三百十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ揭示スヘシ

第三百十三條 同一ノ差出入ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第三百十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第三百十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第三百十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セズ

第三百十七條 爲替受取人其爲替証書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其証書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル証書ヲ受クルヲ得

第三百十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引換ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
第三百十九條 爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受ルトキ亦同シ

第三百十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第四百十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第三百十九條ノ手續ヲナスヘシ

第四百十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替ノ証書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百十九條ノ手續ヲナスヘシ

第四百十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第四百十一條ニ依ル能ハサルトキハ第四百十二條ニ依ルヲ得

第四百十四條 官衙社寺會社若シハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第四百十二條第四百十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第四百十五條 爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限トス

第四百十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ請求スヘシ

第四百十七條 爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ其公告ノ日ヨリ三ケ年以内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料トシテ徵收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ沒入スヘシ

第四百十八條 爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚斑毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第四百十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第四百十條 爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第四百十一條 再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第四百十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第四百十三條 爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書

未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第百五十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百五十五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十三章 驛遞局貯金

第百五十七條 驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス

第百五十八條 貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百五十九條 一人一度ノ預ケ金額ハ十錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

一日ノ預ケ金額ハ五十圓以下トス

第百六十條 一度ニ五十圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書用紙ニ式ノ如キ記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ

第百六十一條 貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ且貯金預所ニ揭示スヘシ
但十錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第百六十二條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原簿ニ登記スヘシ

第百六十三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但驛遞局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第百六十四條 貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ
第百六十五條 始テ預ケ金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預

ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ
但印刷ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第六十六條 貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ
其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ
金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ其通
帳ヲ所持スヘシ

第六十七條 貯金通帳ハ預ケ金受授ノ証トナスヘシ

第六十八條 貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其
金額及年月日ヲ記入シ貯金預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印
スヘシ

第六十九條 一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ
貯金預所ニモ預ケ金ヲナスヲ得

第七十條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金
預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受領スルヲ得ス

第七十一條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳
ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求ス
ヘシ

第七十二條 貯金預ケ人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ
差出シ原簿照合及利子記入ヲ受クヘシ

第七十三條 預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯
金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日
内ニ貯金領收通知書到達セサルトキハ其期日ヨリ十五日内又
到達スルモ記載ノ金額并年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨ
リ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ
郵便局ニ出シ其受取証書ヲ受領スヘシ

一東京

十日

一東京ヨリ百里未満

三十日

一東京ヨリ百里以外

六十日

第七十五條 第七十四條ノ申告書ヲ出サ、ルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其責ニ任セズ

第七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス
第七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリノ通帳受取證書ヲ受領

スヘシ

第七十八條 第七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領収シタルトキハ貯金拂戻願人ニ送達スヘシ

第七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付シテ又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者調印シ貯金預リ所ヲ經テ之ヲ返付スヘシ

第八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第八十條ノ手續ヲナスヘシ

第八十二條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受

取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其證書ノ書換ヲ請
求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニア
ラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未滿

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ證
人ヲ立テ相續人タルヲ證スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七
十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願
書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦
記名調印スヘシ

第百八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願

書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ハ名稱ヲ記シ

其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八十六條 二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書
及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名調印シ且共
同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八十七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總
代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第百八十八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉任スルトキハ其
届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同
貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉任スルハ貯金預ケ人連印
引受人アル貯金預ケノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ
人ハ氏名ノ連記

第百九十條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯

金ノ印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アケ人ハ氏名ノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシル貯金預

第百九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ總代及加印者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

但前任ノ總代人連印スル能ハサル片ハ證人ヲ立ツヘシ

第百九十二條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損ヲ判明ナラサルトキハ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證人ヲ請求スヘシ

第百九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルトキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル

期日内ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻證書到達セサルトキハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ證人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ

驛遞局ハ之テ償フノ責ニ任セス

第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方

ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書

三 書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四 詞訟上及商用上ノ書類

五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一

項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス

之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語

ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝

スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」

凡五百三十二

又四分零六毛ニ超過スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「サンチメートル」凡

尺六寸六分六厘 幅十「サンチメートル」凡三寸三分三厘 厚五「サンチメートル」

凡一寸六分六厘 又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六又ニ超過

過スヘカラス

第二百拾條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量

郵便條例

ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百一十一條 第二項郵便物ハ萬國聯合端書ヲ用ユヘシ

第二百一十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百一十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百一十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス
一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品
一 第十六條第一項第二項及第三項ニ記載シタルモノ

第二百一十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便税ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百一十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便税完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便税ハ此限ニアラス

第二百一十七條 第二百一十八條 第二百一十九條 第二百二十條

第二百一十五條 第二百一十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納税又ハ不足税ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百一十八條 書留郵便物ハ郵便税書留手数料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百一十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取証書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便税書留手数料ノ外増手数料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便税書留手数料及増手数料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

郵便條例

第二百二十一條 郵便稅書留手數料増手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フ」ラソク「ヒ」凡金貨二十錢 若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルモ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局

ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス
一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額
一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便業書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項

第三項第三十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條

第二百二十二條ノ第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第十一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條第二百二十二條ノ價金第七十三條第九十九條第一百條第一百一條第一百四條第一項及第八項ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

第二百二十七條 第二十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五

圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢

シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサル
モノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙
保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以
上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人チ
論セズ本刑ニ一等チ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メ
ニスルチ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二
百三十四條第一項ノ刑ニ一等チ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢
以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ

免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送
配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物未納稅又ハ不足稅ヲ免レタ
ルトキハ本刑ニ一等チ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノ
ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス
行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認
可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字チ
用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徵收スヘキ郵便稅別配達料船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徵收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消附チナサ、ル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替証書ヲ振出シ又ハ爲替証書ヲ受取ラヌンテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處

シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入チナシ又ハ拂戻証書ヲ受取ラヌンテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ偽ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行爲其他郵物ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船入郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條

第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

第十一章 電信條例

○明治七年九月廿二日第九十八號布告

日本帝國電信條例

第一條 此條例ハ日本帝國政府電信寮ニ於テ所轄スル處ノ電機上ニ施行スルナリ

第二條 此條例中ニ用ウル電報ノ語ハ百般ノ音信總テ電機ヲ以テ傳送シ又ハ傳送セント欲スルモノヲ指テ言フナリ

第三條 日本政府電信寮ハ日本帝國外ノ各地ヘ又ハ各地ヨリ傳送スル電報ヲ除キ日本帝國中ニ電報ヲ傳送シ及ヒ受取り取集メ届渡等一切關係ノ事務ヲ取扱フ專任ノ權ヲ有ス

第四條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ電槽器械柱木信線若クハ其線ヲ覆フ匣蓋管筒或ハ支腕凸木柵木陶器海底線浮標旗竿號報柱及ヒ電機并ニ其附屬一切ノ物品ヲ毀傷スル者或ハ此ノ電機

ニテ通信ノ傳送携致又届渡シテ如何様ナル仕方ニテモ妨碍スル者其他上件ノ架木支凸腕木ヲ拔取ル者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又懲役或ハ禁獄ニ處ス

但シ過誤失錯ニ由ル者ハ其損害ノ多少ニ隨テ償金ノミテ出サシム

第五條 電機掛リ官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ電信寮ノ事務ニ従事スル際之ヲ攻打シ或ハ粗暴ノ舉動ヲ爲シ其事業ニ妨碍抗抵ヲ爲ス者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三ヶ月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第六條 何人ニテモ不法ニ柱木柵木海底線信線旗竿浮標其他電機又ハ其附属一切ノ物品ニ馬又ハ其他ノ獸畜或ハ舟筏等ヲ繫ク者ハ其所行ニ依テ損害ノ有無ヲ論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第七條 何人ニテモ柱木信線陶器腕木柵木支凸腕木浮標

其他ノ物品ニ危險物ヲ投擲シ又矢箭火器ヲ彈射スル者ハ其所行ニ依テ毀傷ノ有無ヲ論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 何人ニテモ電線ノ近傍ニテ紙鳶ヲ飛シ信線陶器腕木柵木支凸其他電機ニ属スル物品ニ紙鳶又ハ其附属ノ糸等ヲ引掛ケ電氣ノ妨碍ヲ生セシムル者ハ十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第九條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ政府電信寮ヨリ其局々或ハ電線沿道ノ所々ニ取建タル標識揭示等ヲ削剝シ又ハ拔去者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十條 何人ニテモ不法ニ電機用ノ一部分タル柱木旗竿信線支

線支柱へ攀チ又ハ同様ノ浮標ニ乗ル者ハ其所行ニ依テ妨害ノ有無ヲ論セス二十五圓ヨリ多カラサル罰金又ハ二十一日ヨリ長カラサル懲役又ハ禁獄ニ處ス

第十二條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ柱木浮標其他一切電機附屬ノ物品へ落書繪圖又ハ鐫刻スル者ハ十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役又ハ禁獄ニ處ス

第十三條 電機掛官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ他人へ届渡スルキ電報ヲ故意ヲ以テ隱匿シ又ハ電信寮ヨリ電報ヲ届渡スルキ命令ヲ怠リ又ハ肯セサル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス
第十四條 電信寮ニ仕官スル者故意怠慢ヲ以テ音信ノ傳送又ハ届渡スコトヲ忘却遅延スル者又ハ同様ノコトニ依テ音信ノ傳送届渡シテ妨碍遷延セシムル者又ハ猥リニ音信ノ旨趣ヲ傳渡ス

ル者又ハ他ノ人民又ハ電信寮ノ官員ト雖モ其場ニ立入ヘキ職務ニ非サル者ヲ電信寮ノ器械室ニ立入ラセ又ハ滞留セシムル者以上ノ各犯ハ一百圓ヨリ多カラサル罰金ニ處ス

第十五條 凡ソ此ノ條例中ニ記載シタル箇條ヲ顯然犯サント企ツル者ハ五十圓ヨリ多カラザル罰金又ハ四十日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十六條 凡ソ此ノ條例ヲ犯シテ電信寮所轄ノ物品ヲ毀傷シ又ハ他人ノ損失妨害ヲ生スル者ハ例ニ照ラシテ處分スルノ外其毀傷損失ノ償金ヲ出サシム

第十七條 但シ工部省所管電信私線ノ分モ總テ此條例ニ準シ處分ス
第十八條 凡ソ犯人ヲ處斷シ罰金并ニ償金ノ額ヲ定ムルハ總テ裁判官ノ權内ニ屬ス

第十九條 (明治十二年五月十四日第十八號布告ヲ以テ削除ス故

第十二章 鐵道略則

○明治五年五月四日第四百四十六號布告

第一條 賃金ノ事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セシト欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ル可シ然ラサレハ決シテ列車ニ乗ル可カラズ

第二條 手形檢査及ヒ渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改テ受テ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡サ、ル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」トハ列車ノ立場ニテ旅客ノ「ステーション」乘下リ荷物ノ積ミ下ロシテ爲ス所ヲ云フヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ其確証判然タル片ハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條 途中「ステーション」ニテ乘組并ニ手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘リ組

ムヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナ
キ時ハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乗組ム
ヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アルキハ其手形ノ
番號ノ順序ヲ以テ乗ルヲ得ヘシ

第四條 偽欺ノ者扱方ノ事

何人ニ限ラス賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ
旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乗ラスシテ更ニ上等ノ
車ニ乗り組ミ又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ増賃金ヲ拂
ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ
拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ到リナカラ車ヨリ下リ去ル
ヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者
ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ

第五條 列車運轉中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルヲ又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場
所ノ外ニ乗ルヲ禁ス

第六條 痘瘡等ノ病人ヲ禁止スル事

痘瘡及ヒ諸傳染病ヲ煩フ者乗車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ
在テハ見當リ次第鉄道掛リノ者ヨリ車外并ニ鐵道構外ヘ退去
セシムヘシ

第七條 吸煙并ニ婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」構内吸煙ヲ禁セシ場所并ニ吸煙
ヲ禁セシ車内ニテ吸煙スルヲ許サス且婦人ノ爲メニ設アル
車及ヒ部屋等ニ男子安リニ立入ルヲ許サス若シ右等ノ禁ヲ犯
シ掛リノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外并ニ鐵道構外ニ直ニ退
去セシムヘシ

第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ限ラズ總シテ列車乗組中又ハ「ステーション」并ニ鐵道構内ニテ醉ニ乗シ妄狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛リノ者ヨリ車外及ヒ鐵道構外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第九條 鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ限ラズ猥リニ「ステーション」其他鐵道構内ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆棚其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ヲ都テ法ニ隨テ所置スヘシ

第十條 機關車等ニ乗込ヲ禁スル事

機關方并ニ火夫ノ外ハ其筋ノ許シテ得スシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乗ラント爲ス可カラズ且ツ車長及ヒ車掛リノ者ノ外其筋ノ許ヲ得スシテハ荷物車又ハ旅客ノ爲メニ設ケサル車ニ乘リ又ハ乗ラント爲スヘカラス若シ此禁ヲ犯シ鐵道掛リ

ノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條 鐵道地所ヘ妄リニ立入者取扱方ノ事

何人ニ限ラズ「ステーション」又ハ鐵道構内ヘ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外ヘ立去ラシムヘシ

第十二條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリト總テ之カ爲ニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其請取証書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ証書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且ツ償金モ五十圓ヲ過ルヲナシ

第十三條 金高及ヒ大切ノ物品紛失毀損關不關ノ事

金銀貨紙幣郵便切手爲替會社通用券爲替手形約定証書金銀請拂證書地所建家沽券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍金及諸彫鐫細

工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品類及ヒ硝子器類陶器漆器酒類蠶繭絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄并價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外總テ政府ニ於テ之ヲ償ハス

第十四條 牛馬獸類運送ノ事

牛馬及ヒ其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送り人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サ、ル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルモ牛一疋金二十圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ付五半圓以上羊或ハ豚一疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條 砲發ヲ禁スル事

何人ニ限ラス車内ハ勿論鐵道線及ヒ其他構内ニテ砲發スルヲ

禁ス

第十六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事

鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトロリヤム」「ケロシン、ナイル」「トルベシグイ」石炭油等ヲ云 硝性並ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ請取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及ヒ姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出スヘシ

第十八條 物品並ニ畜類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品並ニ畜類紛失損害アリテ鐵道掛リノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非ンハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條 荷物運送賃金ノ事

何人ニ限ラス荷物運賃ノ催促ヲ受ケ尙ホ拂ハサルキハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若シ又其荷物既ニ他所ニ運送セシキハ其後同人附属ノ荷物鐵道掛リヘ送來ルコアルキハ之ヲ留置キ同人ニ告知ラセタル上ニテ滞金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滞金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人ヘ返スヘシ又時宜ニ依リ右ノ取計ヒテ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金並ニ入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條 規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ限ラス諸事前條ノ規則ニ隨ハスノハ乗車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サ、ルヘシ

第二十一條 規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及加除アルキハ遍ク告達スヘシ

第二十二條 荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條

此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アル

第二十四條

旅客並ニ荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖モ其變革毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鐵道頭鐵道支配方及ヒ運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第二十五條

此規則來ル五月七日ヨリ施行スヘシ
右之條々此度確定候事

第一節 鐵道犯罪罰例

○明治六年三月十三日第一百一號布告

(明治十二年三月廿八日第十二號布告禁錮ヲ禁獄)

改正ス故ニ今其改正ニ從ヒ直ニ禁獄ト記ス

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關スル事務取扱ヒ中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニ依リ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルキハ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第二條 (明治十二年三月二十八日第十二號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス) 規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ二十五

圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記スル所行ヲ爲ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金或ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條 (明治十二年三月二十八日第十二號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス) 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條（明治十二年三月二十八日第十二號布告ヲ以テ左ノ通
 リ改正ス）規則第十七條ニ記スル所ノ諸荷品物書其外ヲ故テ
 ニ出サス或ハ故テニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三ヶ月以内ノ懲
 役又ハ禁獄或ハ其品物壹噸千七百斤每ニ二十五圓以内ノ罰金ニ
 處ス壹噸以下ハ十圓以内尤モ一罰ノ贖金高五百圓ニ過キス
 第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照テシ罰ヲ科ス
 ルノ外其毀損物ノ代價ヲ償フシムルコアルヘシ但其償金ノ追
 徵モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フトキハ法官ニ於テ追徵スヘシ

第十三章 出版條例

○明治八年九月三日第三百三十五號布告

出版條例

第一條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントス
 ル者ハ出版ノ前ニ內務省ヘ届ケ出ツ可シ
 但シ社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニアラ
 ス

第二條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ
 三十年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此專賣ノ權ヲ板權ト云フ
 但板權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ板權ヲ願
 フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フ可シ其願ハサル者ハ各人一
 般ニ出版スルヲ許ス

▲明治九年五月二日內務省甲第十四號布達

客歲九月御布告相成候出版條例第二條但書ニ「其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス」ト有之候得共出版届ノ儀ハ第一條ノ通出版ノ前必ス當省ヘ可届出儀ト可相心得此旨布達候事

第三條 出版届版權願トモ草稿ヲ添ルニ及ハスト雖モ時トシテハ草稿ヲ徴シ検査スルコアル可シ

第四條 草稿又ハ納本ヲ検査シテ世治ニ害アル者ト認ムルキハ其出版又ハ販賣ヲ禁シ或ハ刻板ヲ毀タシムルコアル可シ

第五條 出版届版權願トヒ其所在ノ地方廳本籍又ハ寄ヲ經由ス可シ

但シ著譯者出版人其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳ヲ經由ス可シ

第六條 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ

十五年ノ延期ヲ許ルスコアルヘシ

第七條 版權免許ノ爲メニ其年限ヲ記セル証書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第八條 著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ版權ヲ與ヘ年限ヲ起算ス可シ

第九條 他人ノ著譯書已ニ版權ヲ有スル者ヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示談ノ上連印ノ願書ヲ出ス可シ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト看做ス可シ

第十條 他人ノ著譯書版權ヲ有スルモノヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サレ可カラズ其出願ノ手續ハ前條ニ依ル可シ

第十一條 既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スルハ更ニ願ヒ出ルニ非

サレハ板權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊數ヲ分合
シテ改版スルニ止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存
ス

但シ屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ル可シ

第十二條 著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得
其版權ヲ願フキハ之ヲ與フ可シ

第十三條 版權年限未ダ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フ可
シ

但シ版權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ屆ケ出ツ可シ

第十四條 他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得
可シ版權願書若クハ出版屆書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條 版權ヲ得タル者ハ他人其條章ヲ剽竊スルヲ許サス
但シ論辯若クハ証明スル爲メニ引用スル者ハ此例ニアラス

第十六條 同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願

フ者二人以上アル時ハ其ニ版權ヲ與フ可シ其事情明白ナラザ
ル者ハ事由ヲ検査シテ後チ之レヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十七條 外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリト雖モ乙者又之ヲ譯
シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明

瞭ナラシムルノ確証アルモノ版權ヲ願ヒ出ル時ハ検査シテ之
ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十八條 著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テ
ハ妨ケナシトス

但シ表題ノ上ニ何某ト記載スヘシ

第十九條 出版ノ圖書ハ内務省ニ務テ目錄ヲ作り時々公布ス可
シ

第二十條 圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ム可シ其版權

ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ム可シ
納本モス及ヒ免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サス

但シ出版ノ上毎部定價ノ印ヲ押スヘシ

第二十一條 出版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ
氏名ヲ知ルヘカラサル者ハ其由ヲ記ス可シ而シテ何年月日出
版或ハ何年月日板權免許ト記シ板主ノ住所氏名ヲ記スヘシ氏
名ヲ記セスゾテ別號ヲ記スルトナ得ス

板權ヲ相續シ若クハ賣買若クハ分板シタルキハ相續人買主及
ヒ分板ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第二十二條 板權ノ賣買ハ勝手タル可シ賣買スルキハ双方連印
シテ其由チ内務省ヘ届ケ出ツヘシ

第二十三條 板權ヲ分テ譲リ若クハ賣リ同一ノ圖書チ各自ニ出
板スルト妨ケナシ之ヲ分板ト名ク

但シ双方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ

▲明治十二年四月廿五日内務省甲第八號布達

出版條例第二十三條但書以方連印ノ儀自今甲者所有ノ版權ヲ
既ニ乙者ニ分版シ後又丙者ニ分版スルキハ甲乙丙者共連印ノ
上可届出儀ト可相心得此旨布達候事

第二十四條 版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分板シ及ヒ改板
シテ届ケ出サル者ハ其版權ヲ失フ可シ

第二十五條 願濟ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋
ヲ加フル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本ス可シ若シ届出テス又ハ
納本セサル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第二十六條 免許狀ヲ失フ者ハ其趣チ届出テタル上更ニ之ヲ與
フ可シ

但シ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第二十七條 小説歌謠ヲ出版スル者亦此ノ條例ニ從フヘシ
第二十七條 彫畫ノ類ハ出版スル毎ニ届出ルコト第一條ニ依ル可

但シ板權ヲ與ヘス

▲明治九年十一月十五日内務省甲第四十二號布達
彫畫類是迄三部ツ、納本致來候處自今尋常彫畫錦畫等ニ限リ刻
成之都度一部可相納此旨布達候事

▲明治九年二月九日第十二號布告ヲ以テ左ノ三條ヲ追加セラル
第二十九條 板權免許狀附與ノ後板權賣買或ハ改題等届出ノ上

離形ノ通藏板人免許狀へ地方廳印ヲ請テ可シ
第三十條 裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ツヘシ

但シ願出ル者ハ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ム可シ
▲明治九年五月三十一日第八十一號布告ヲ以テ左ノ一條ヲ追加

六

第三十一條 都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納ス
ル者ハ其手数料トシテ金三十錢ヲ納ム可シ

但シ収納方ハ免許料ト同様タルヘシ

▲明治九年十一月十日内務省甲第四十一號布達

版權免許料ノ儀ハ出版前ニ豫定シ相納候後免許狀返納願出候向
ハ自今免許證下付ノ日ヨリ三十日以内ニ其旨願出候ヘハ免許料
ハ返付シ手数料ヲ収納スヘシ若シ右日限過去リ免許證返納願出
候トモ免許料ハ返付不致候條此旨布達候事

▲明治十四年一月廿九日内務省甲第一號布達

出版々權許可ノ圖書刻成前定價ヲ豫定シ免許料上納候向モ有之
候處自今刻成ノ上々納可致此旨布達候事

但明治九年當省甲第四十一號布達ハ取消候事

出版條例罰則

第一條 內務省へ届ケヌシテ圖書ヲ出版シ及ヒ版權免許ヲ得ヌシテ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セズ及ヒ免許料ヲ出サヌシテ發賣スル者ハ其刻板印本及ヒ賣得金ヲ沒收ス

第二條 凡ソ偽版ヲ作り或ハ書中ノ字句及ヒ繪圖ノ模様ヲ少變シ若クハ少加シテ其表題ヲ改メ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シテ出版スル者ハ罰金二十圓以上三百圓以下ヲ科シ其刻板印本及ヒ賣得金ハ沒收シテ板主ニ給付ス

第三條 第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及ヒ賣得金ヲ沒收シテ板主ニ給付ス

第四條 無名若クハ板主ノ住所ヲ記カ、ルノ圖書ヲ出版シ若ク

ハ發賣スル者並ニ變名偽名シ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出版シ若クハ情ヲ知テ發賣スル者ハ禁獄十日以上六月以下ヲ科ス但シ沒収ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條 凡ソ著譯ノ圖書譏謗律及ヒ新聞紙條例第十二條以下ヲ犯ス者ハ著譯者其罪ニ坐ス

但シ著譯者ハ首テ以テ論シ出版者ハ從テ以テ論ス
第六條 猥褻俗ヲ亂ルノ圖書小説歌謠彫畫ノ類淫褻ニ係ル者ハ皆同シヲ著譯シテ出版スル者ハ禁獄三十日以上一年以下罰金三圓以上百圓以下ヲ科ス

第七條 法司圖書犯則ノ訴テ受レハ即時刻板及ヒ現存ノ印本ヲ勾収セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス
活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若クハ付スル所ノ印刷人犯情ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

第八條 既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ渉ル者ハ仍
ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス

○右改正

○明治十六年六月廿九日第廿一號布告

出版條例

第一條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントス
ル者ハ出版ノ日ヨリ到達日數ヲ除キ十日前ニ内務省ニ届出ツ
ヘシ

但シ社則熟則引札ノ類印行シテ發賣セサル者ハ此例ニ在ラ
ス

第二十八條 彫畫ノ類ヲ出版セントスル者ハ出版前ニ内務省ニ
届出ツヘシ

但シ板權ヲ與ヘス

罰則

第一條 内務省ヘ届ケヌシテ圖書ヲ出版シ及板權免許ヲ得スシ
テ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セス及ヒ免許料ヲ出サスシテ
發賣スル者又ハ出版發賣ヲ禁止セラレタル圖書ヲ出版發賣シ
タル者ハ其出版印本及ヒ賣得金ヲ沒収ス

第五條 凡ソ著譯ノ圖書新聞紙條例第三十一條第三十二條第三
十三條第三十四條第三十七條第三十八條第三十九條ノ罪ヲ犯
シタル者ハ著譯者出版者共犯ヲ以テ論シ該條例ニ依テ罰ヲ科ス
但シ印刷器ヲ沒収スルハ第七條第二項ノ場合ニ限

第六條 削除

第十四章 新聞紙條例

○明治十六年四月十六日第十一號布告

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其ノ發行所ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ
時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出ス可シ

- 一 題號
- 二 記載ノ種目(政治法律農工商業等ノ類)
- 三 刷行ノ定期又ハ無定期(毎日毎週毎月又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者)
- 四 發行所及印刷所
- 五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身分氏名年齢住所

第三條 社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラズ新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主社主ノ例ニ依ル

第四條 新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントス

ルトキハ更ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ變更アルトキハ七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼スルコトヲ得ス

第七條 內國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナルコト

ヲ得ス公權ヲ停止セラレ及演説ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條 新聞紙ノ發行ヲ願出ツルトキハ保證トシテ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

- 一 東京ニ於テハ千圓
- 一 京都大阪橫濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
- 一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條 保證金ハ持主若クハ社主ヨリ爲替方又ハ銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債證書ヲ以テ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ム可シ

新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルトキハ保證金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其准許ノ効ヲ失フ者トス

刷行ノ定期ニ發行セザルトキハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ

無定期ノ新聞紙前號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサル者亦同シ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名并發行所ヲ記載スヘシ

第十二條 發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及本管轄審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ム可シ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方(東京府ヲ除ク)ニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル、者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フ可シ

第十六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押へ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得

府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞紙ヲ差押へ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非サレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條 一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個

ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルヲ得ス

第十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルヲ得其告訴告發ヲ爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ納完セズ又ハ損害ヲ賠償セザルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條及第四十七條ニ依ル保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若クハ社主ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ七日

以內ニ其欠額ヲ納完セ可シ若シ納完セサルトキハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失フ者トス

第二十一條 准許ヲ得ヌ又ハ准許ノ効ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者亦同シ

第二十二條 詐偽ノ願書若クハ屆書ヲ差出シタル者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主若クハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處斷ス
前項ノ場合ニ於テ內務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第二十三條 第四條第二項及第十條第二項第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス

第二十四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人トナルヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二拾五條 沒収若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可シ違フ者ハ編輯人十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタル片ハ之ヲ證明ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタル片ハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタル片ハ其求ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル、者及

之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサルトキハ此限ニ在ラス

第三拾條 他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其新聞紙ニ正誤ヲ載セタル片ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル

第三拾一條 式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其大意ヲ録シ若シハ草案ヲ掲載スルモ亦同シ

第三拾二條 官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三拾三條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載

スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十四條 陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ニ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒收ス

外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十五條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三十六條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル、者ハ印刷器ヲ沒收ス

第三十七條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十五條ニ觸ル、者ハ重ニ從テ處斷ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三十八條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ議ヲ亂ル者及顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 猥褻ノ文辭圖畫及誹謗ヲ寓シタル戲畫ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條 此條例ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕再犯加重

數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條 外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

第十五章 集會條例

○明治十三年四月五日布告第十二號

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社(何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結合スル者ヲ併稱ス)スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察官ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タル可シ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリヒ之

ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスル片ハ尙ホ第一條ノ手續ヲ爲ス可シ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ規定アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クル片ハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スル片ハ第一條ノ手續ヲ爲ス可シ

第四條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 管轄警察官ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムル片ハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消ス可アル可シ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其

認可ノ証ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムル可アル可シ

▲明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス) 警察官會場ニ入ル片ハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アル片ハ結社集會ニ關スル事ハ何事アリト之ニ答辨ス可シ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ証ヲ明示セサル片講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ル片又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害ナリト認ムル片及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命シテ之ニ従ハサル片ハ全會ヲ解散セシム可シ

▲明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス) 前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタル片地方長官(東京ハ警視長官)ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一個年以内管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之

ヲ解散セシムルヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以内全國内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルヲ得

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ス
第八條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連絡通信スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ス
第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ二圓

以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 (明治十五年六月三日第廿七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルハ社長ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ詐僞ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ僞答スルハ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條 (明治十五年六月三日第廿七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セズ又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處

シ警察官ノ尋問ニ答ヘズ又ハ偽答スルハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十三條 派出所ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙ホ退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁錮ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタル片會主會長及ヒ社長幹事ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁錮ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタル片會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁錮ニ

處シ其社ヲ退散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁錮ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正シ更ニ第十七第十八十九ノ三ヶ條ヲ追加シ而シテ本條ノ舊成文ヲ以テ之レヲ第十九條ニ置ク)

學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルコ拘ハテス多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムル片ハ之ニ監臨スルコヲ得若シ其監臨ヲ肯セサル片ハ第十二條ニ依テ處分ス

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコアル片第十條ニ依テ處分ス

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルハ第六條ニ依テ處分ス

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルハ之ヲ禁止スルヲ得若シ禁止ノ命ニ従ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第拾九條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

第十六章 寫真條例

○明治九年六月十七日第九十號布告

第一條 凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フベシ之レヲ寫真板權ト稱ス
但之ヲ願ハザル者ハ別段届出ルニ及ハス

第二條 板權ヲ得タル寫真ニハ必ス每葉寫主ノ標號及ヒ定價並ニ板權免許ノ年月ヲ記載ス可シ

第三條 板權ヲ得タル者ハ寫真一版ニ付キ三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付キ十二葉ノ定價ヲ納ム可シ之レヲ納メザル前ニ發賣スルヲ許サス

第四條 出板條例第七條第十三條第十一條ノ第二項第二十二條第二十三條第二十四條及ヒ第二十六條ハ寫真板權ニ適用ス可シ

但シ出版條例第二十六條但書ノ手數料ハ一版ニ付キ六葉ノ定價ヲ納ム可シ凡ソ願屆書等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ル可シ

第五條 凡ソ圖書ヲ寫眞スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ル可シ

第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現在ノ寫眞ヲ沒収シ壹圓ヨリ少ナカラス十圓ヨリ多カテサルノ罰金ヲ科シ仍ホ板權ヲ追奪ス可シ

第七條 他人ノ板權ヲ侵シ寫眞ヲ覆寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之レヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現存ノ寫眞ヲ沒収シ一圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カテサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム
但シ原主ヨリ訴出ルニアラサレハ受理セス

第十七章 褒賞條例

○明治十四年十二月七日第六十三號布告

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者(孝子順孫節婦義僕ノ類)又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者(疏河築隄修路墾田ノ業或ハ貧院學校設立ノ類ヲ云フ)ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章 右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章 右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章 右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フナルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ
褒章ヲ賜フヘキハ其都度飾版一個ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セ
シメ以テ標識トス

第四條 褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得
然レモ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ沒收シ其未タ授與サ
ル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ授與セス

褒章ノ圖

章 銀櫻花紋圓形徑九分

鈕并飾版 銀

綬 幅一寸種類ニヨリ紅綠藍三色ノ別アリ

圖ハ略ス

佩用式

一褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

第十八章 新舊公債證書發行條例

第九十五號布告 明治八年五月廿五日

明治五壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ通債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スルニ付政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス

第一節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五壬申年迄ノ間舊諸縣ニ於テ借用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五上シ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓一百圓五拾圓二拾五圓ノ五

種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却シヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部分ニ別チ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明カニス

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十ヶ年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間テ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂渡スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之ヲ拂戻スヘキ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年迄毎年六月一日ヨリ十五日マテ十二月

新舊公債證書發行條例

一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ
銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ
本文總テ其金額ハ大藏省ノ都合ニヨリ金

但明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年四分ノ利息月割テ以右抽籤法行ヒシ月迄ノ分下渡スヘシ

第三條 公債證書ノ渡方及ヒ其簿記ノ手續ヲ明カニス

第一節 新舊公債證書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後之ヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別 新公債ナレハ四ノ區別 十七種ノ記號 中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達スヘシ

但此公債證書ヲ其地方管廳ニ送達スルニハ勿論其債主ノ名面金高證書等ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添テ相渡スヘシ

第二節 各地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ大藏省ヨリ渡サレタル證書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ

證書ノ金高種類ヲ分別シテ之ヲ簿冊ニ登記シ且其證書裏面ヘ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條 舊公債證書元金年賦并ニ新公債證書ノ利息渡方手續等ヲ明ニス

第一節 毎年舊公債元金年賦并ニ新公債利息下渡方ハ各地方官ニ於テ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取調其年ノ渡方ニナルヘキ利息並元金年賦共金額内譯合計表ヲ作り新公債上半季ノ利金表ハ五月十日マテ下半年ノ利金表及舊公債年賦金表ハ十一月十日迄ニ毎年大藏省ニ差出スヘシ

第二節 大藏省ヨリ右合計表ニ從テ其下渡スヘキ金高ヲ拂場所ヘ廻送ノ手續ヲナシ臨時官員出張スルカ又ハ其地方官ニ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其年ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取り引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節 右切取りタル小札ハ其拂方ヲナシタル明細調書ト共ニ直チニ之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條 新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス

第一節 新公債證書ノ元金拂方ヲナスニハ毎年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ右抽籤ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニシ其年拂戻スヘキ金高ヲ定メ此金高ニ證書ノ高チ部分シ東京或ハ大阪等證書ノ金額最モ多キ場所ヘ國債寮ノ官員出張シテ其地方ノ長官及公債掛立會ノ上管下ノ證書所持人十人以上ヲ集メ眼前ニ於テ籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ部分ヲ其年ノ拂戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節 抽籤ノ處置相濟ニ賦當ノ記號公定スレハ立會タル證書所持人等ヨリ其抽籤ノ方法公正ナル事ヲ保證スル爲メ書面ヲ出サシメ然ル後何記號證書ハ何月何日何處ニ於テ拂戻スヘシ

ト云フテ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告スヘシ

第三節 右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲナシ

公債拂方ノ官員出張シテ時宜ニヨリテ地方官ニ委任スルコトアルヘシ 其籤ニ當リタル證書引換ニ其拂方ヲナシ其證書ハ拂濟ノ證ヲ印シ明細書ト

共ニ直ニ大藏省ヘ送納スヘシ

第四節 右拂方ノ取扱ハ年賦又ハ利大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルコト有ヘシ

第五節 凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ケ年ヲ過クルキハ一切之ヲ拂渡サス證書所持主ノ損失タルヘシ然レトモ其受取リ難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申立テ認可ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

但起業公債證書(記名無記名)モ本節ニ準ス又次條改正追加
ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名證書ニ適用スルモノトス

第六條 新舊公債證書受授賣
買等ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書トモ全ク所持人ノ所有物タルハ他人外國人ハ

テ除ク讓渡賣渡質入等都テ勝手タルヘシ尤死者又ハ失踪者遺留

ノ公債證書並養子ノ戸主離縁復籍スル時其養家ニ属スル公債
證書ハ特約アルモノ、外總テ其遺留財產ヲ相續スヘキモノ、

所有ニ歸スルモノトス

但本文讓渡賣渡ハ第二節以下ノ手續ニ照準スヘク又死亡失

踪離縁ニヨリ遺留セル證書ハ此條例附錄第二圖ノ振合ニ依

テ名面書替ノ上管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第二節 證書ヲ授受及ヒ賣買スルニハ双方ノ示談整ヒシ上ニテ

甲ノ方讓リ主賣ハ證書裏面ヘ形ノ通り裏面記名調印シテ別ニ

主テ云フ

其證書ノ種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙受クル者買ノ姓名

等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管廳ニ差出スヘシ

但裁判所ニ於テ公賣スル證書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ

言渡ニヨリ流質トナリタル證書ヲ有スル者此條例附錄第三

圖ノ振合ニ依テ名面書替ノ上裁判所ヨリ管廳ヘノ通知書ヲ

添ヘ管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第三節 管廳ノ公債掛ハ右證書ト届書ヲ受取り其次第ヲ承リ正

シ證書裏面ヘ形ノ如ク裏面年号月日ヲ記シ檢印シテ之ヲ其差

出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘハ翌月五日迄

ニ届出ヘシ

第四節 右ノ手續ニテ檢印済ノ證書ヲ甲ニリ乙ヘ渡シタル時甲

乙トモ同管下ノ者ナレハ別ニ届書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轄

違ナレハ其證書ノ種類記号番号枚數及ヒ甲ノ姓名年号月日ヲ

新舊公債證書發行條例

詳記シテ乙ヨリ其管廳へ速カニ届出ヘシ

但利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ證書他ノ地方ヨリ増加シ
來ル分ハ先買主ノ届出ヲ聞届最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦

金受取方追加表ヲ制シ尙大藏省ニ差出スヘシ

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備置タル公
債簿冊へ其證書ノ金高種類記号番号枚數及ヒ其名面取引ノ年
號月日ヲ登記シ且證書へ割印シテ下渡スヘシ

第六節 右ノ手續ヲ以テ引取リタル證書ヲ更ニ他人ニ
外國人讓
ヲ除ク

リ渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節 新舊公債證書ヲ管轄違ヒニテ讓渡賣買等ヲ事アレハ甲
ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳へ其證書ノ種類記號金高
及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スル片直ニ公債簿上ヲ
削除スヘシ尤此時證書へ割印ヲ爲スニ及ハス乙管廳ニテハ右

送達書ヲ得タレハ直ニ其旨ヲ甲管廳へ回報スヘシ尤甲管廳ヨ
リ乙管廳へ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人へ托シテ送達
スルモ妨ナシ且大藏省へハ一月分翌月五日迄ニ甲乙管廳ヨリ
互ニ届出ヘシ

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ其證書賣買スルヲ差留
置ヘシ

第八節 新舊公債証書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ地方管廳
ヨリ乙地方管廳へ相達スル儀ハ第七節ノ通りタルヘシ本人ハ
所持ノ證書種類記號番號枚數及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名
等詳記シ乙管廳ニ届出ヘシ管廳ニテハ公債簿冊ヲ登記シ証書
へ割印シテ下渡スヘシ

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノ者新舊公債證書ヲ讓受買受ントス
ル時ハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳ニテハ本管ノ人民同一ノ取扱

チナスヘシ就テハ年々元利金モ其應ヨリ拂渡スヘシ
但後日本籍へ復歸スルキハ本人ヨリ即日管廳へ届出ヘシ管
廳ニテハ復歸ノ地方廳へ通達方並本人届方等第八節ノ通
ルヘシ

第十節 新舊公債證書所持ノ者他ノ府縣へ寄留スルキハ年々元
利拂及讓渡シ賣渡ニ寄留地管廳ノ主務ハナスニ付寄留セント
スル者ハ證書ノ種類記號番號金高枚數ニ本管廳へ届出ヘシ本
管廳ニテハ寄留地ノ管廳へ送達シ寄留地ノ管廳之ヲ受テ取扱
チナス手續ハ第七節第八節照準スヘシ若シ其身他へ寄留スト
雖モ都合ニ因テ公債證書ハ本管へ殘シ置年々元利受取或ハ讓
渡賣渡チナス如キハ寄留地管廳ニテ與カルコナカルヘシ然レ
モ所持高ノ内都合ニ因リ幾分カ引分ケ寄留先へ携帯スルキハ
其分チ本管廳へ届出本管廳ヨリ寄留地ノ管廳へ送達ノ手續ハ

前條ニ記載セル通タルヘシ尤本管へ殘シタル證書ハ本管廳ノ
所轄勿論ニシテ年々元利受取或ハ讓渡賣渡本人等ヨリ委任狀
ヲ與ヘシ代理人ヲ以テ其取扱ヲ爲シ妨ケナカルヘシ

但後日本籍へ復歸スルキハ第九節但書ノ通タルヘシ

第十一節 都テ讓渡又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ
轉移スルチ得ヘシ然レモ前各節ノ手續ヲ了セサル間ハ其讓受
主買主ニ於テ假令其證書ヲ所持スルモ利賦金及ヒ元金ハ官簿
ニ記載ノ債主ニアラサレハ下渡サス又證書紛失等ヨリ代リ證
書ヲ願出ルモ亦前ニ同シ

第十二節 毎年六月一日ヨリ十五日迄ニ新舊公債利息渡方并十
二月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息舊公債元金年賦渡方ヲ爲
スニ付五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月十五
日迄ハ各地方證書所持人ノ混淆セサル爲メ右證書ノ讓渡賣買

ノ届出ヲ見合スヘシ

第十三節 公債證書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受クル節ハ其廳主
掌官ノ官名姓名ヲ記シ讓渡等ノ節ハ其官印(官印ナキハ其實
印)ヲ捺スヘシ

但記名者代換ノ時ハ次節ノ手續ニ照準ナスヘシ

第十四節 銀行及ヒ公認シタル會社學校又ハ町村組合等ノ類共
同合資ニシテ所有主壹個人ニ限リ難クトモ其内主長タル者又
ハ證書管保ノ責ニ任スル者等壹個人ノ姓名ヲ記シ肩書ニ其責
任タル名義ヲ記シ例ヘハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會
社ハ頭取其支店ハ支配人町村組合ハ總代人
等何レモ其責任タル名目ヲ肩書ニシ以テ
壹個人ノ私有ニ非ルヲ明ニスルノ類而シテ讓渡其他一切
右記名者ノ實印ヲ以テ取引致スヘシ右記者名代換等ノ節ハ右
ノ類ニ限リ代任ノ者ヘ引繼キ證書々替ニ及ハスト雖モ代換ノ

譯及ヒ其肩書姓名印影ヲ管廳ヘ届出ヘシ其廳ニ於テハ簿冊ヘ
其譯並名面年號月日等ヲ登記シ置クヘシ然ル後代任ノ者更
ニ記名者ト成リ讓渡其他一切其肩書姓名實印ヲ以テ取引致ス
ヘシ

但是迄銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メス所有スル向ハ
證書書替ニ及ハス本節ニ照ラシ記名者ヲ定メ管廳ヘ届置ク
ヘシ向後讓渡其他一切本節ニ照準シテ取引致スヘシ

第七條 新舊公債證書引當物等ニシテ

第一節 新舊公債證書借金ノ引當又ハ質物ノ証據金トシ所持人
ヨリ他ニ預ケ置クアルモ其拂戻スヘキ元金利息ハ其所持人
ヘ下渡スヘシ尤本人調印ノ委任狀ヲ持參セル時ニハ外國人ヲ
除クノ外何人ヘナリモ相渡スヘシ

第二節 若シ又質入流込トナリタル類ハ讓渡賣買ノ手續ヲ爲ス

事第六條第二節第三節第四節ノ通タルヘシ

第八條 新舊公債證書共裏面并ニ引換等ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書讓渡賣買頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至ルハ其所持人ハ書面ヲ以テ其地方管廳ニ申立證書ノ繼足ヲ願ヒ其證書ヲ差出スヘシ

第二節 地方管廳ニ於テハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ置證書ハ兼テ大藏省ヨリ渡置タル記名紙ヲ補足シ割印シテ其次第年號月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之ヲ其所持人ニ渡スヘシ

第九條 新舊公債證書共紛失等ノ處置ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取レシトハ何號何番何高ノ証書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由テ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省

ヘ届出ヘシ

但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時管内ヘ其趣ヲ布達スヘシ

第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ証書種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳ヘ訴出管轄廳ヨリハ即大藏省ヘ可届出旨ヲ布達ス其地方廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他ノ手續新聞紙ナキ時ハ村町ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレシ月ヨリ七ヶ月間管内ヘ公布スヘシ高札場ニ掲示セシム

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息ニ之ヲ拂ヒ渡サ、ルヘシ

第四節 七ヶ月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フヘキ新証書ヲ作り其地方官廳ヲ通テ之ヲ所持人ヘ交付スヘシ尤公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新証書ヲ渡シタル

次ノ拂ヒ期月ニ一同之ヲ拂渡スヘシ

但此新証書ヲ渡スル元証書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其

管廳ノ簿冊ニ記入スヘシ

第十條 新舊公債証書其燒失等處置手續ヲ明ニス

第一節 水火災ニテ証書流失燒失ノ事アルハ所持人ハ前條ノ手

續ニ從テ名面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新証書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流失燒失ノ次第ヲ推糺シ判然タレハ直ニ

其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ヘ申立ヘシ

但其流燒失若シ判然タラサレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之

ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ証書ヲ作り之ヲ其管廳

ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

但証書流燒失ニ付新証書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊

ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其証書ノ部分燒切又ハ消滅シテ通用

シ難キ程ナレハ所持人ハ証書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其

管廳ニ申立証書ノ書換ヲ乞フヘシ

但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 新舊公債証書續造等ノ處分ヲ明ニス

第一節 何人ニ不拘公債証書ヲ故ラニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗

抹シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯ス者ア

レハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

但舊公債証書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去リ殘餘ノ小札金額ニ

依テ計算シ罰金ヲ當ルモノトス

第二節 何人ヲ論セス此公債証書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ之ヲ摸

擬セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雜形ノ圖畫文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルコアルヘシ

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其田ヲ世上ニ公告スヘシ

第十九章 金錄公債證書發行條例

○第百八號布告明治九年八月五日發

第一條 華士族及ヒ平民ニ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一時ニ之ヲ下渡スコト爲シ以テ公債證書ヲ付與スヘシ
一 永世祿ノ者ヘハ

金祿元高ニ賞典祿アル者ハ家祿ニ合計シ元高トス 年限

七万圓以上	五ヶ年分
六万圓未滿	五ヶ年二分五厘分
六万圓以上	五ヶ年半分
五万圓未滿	五ヶ年七分五厘分
四万圓未滿	六ヶ年分
三万圓以上	

三万圓未滿	六分年二分五厘分
二万圓以上	六分年半分
二万圓未滿	六分年七分五厘分
一万圓以上	七分年分
一万圓未滿	七分年二分五厘分
七千五百圓以上	七分年半分
七千五百圓未滿	七分年七分五厘分
五千圓以上	八分年分
五千圓未滿	八分年二分五厘分
二千五百圓以上	
二千五百圓未滿	
千圓以上	
千圓未滿	
九百圓以上	
九百圓未滿	
八百圓以上	
八百圓未滿	
七百圓以上	
七百圓未滿	

右一ヶ年五分ノ利子ヲ給ス

七百圓未滿	八分年半分
六百圓以上	八分年七分五厘分
六百圓未滿	九分年分
五百圓以上	九分年二分五厘分
五百圓未滿	九分年半分
四百圓以上	九分年七分五厘分
四百圓未滿	十分年分
三百圓以上	十分年二分五厘分
三百圓未滿	十分年半分
貳百五十圓以上	十一分年分
貳百五十圓未滿	
貳百圓以上	
貳百圓未滿	
百五十圓以上	
百五十圓未滿	
百圓以上	
百圓未滿	

右一ヶ年六分ノ利子ヲ給ス

百圓未滿

十一ヶ年半分

七拾五圓以上

十二ヶ年分

五拾圓以上

十二ヶ年半分

四拾圓以上

十三ヶ年分

三拾圓未滿

十三ヶ年半分

三拾圓未滿

十四ヶ年分

一終身祿ノ者ハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

一年限祿ノ者ハ

十年以上ノ者ハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス

十年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス

八年以上ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

六年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス

四年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス

二年ノ者ハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

第二條 此公債證書ノ利子下渡ハ明治十年分ハ十一月翌年五月

ニ相渡シ以後之ニ準シ年々兩度ニ下渡ス

但利子下渡シ混淆セサルヲ毎々四月一日ヨリ五月廿八日

迄十月一日ヨリ十一月廿八日迄ハ證書ノ讓渡シ賣買等ノ届

金祿公債證書發行條例

出ヲ見合スヘシ

第三條 家祿賞典祿元高ヲ付與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スル片ハ元高ニ向テ公債証書ヲ付與スル制限左ノ如シ
譬ヘハ

一金壹萬圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六万五千圓此公債証書ノ利子一ヶ年五歩
金三千二百五十圓ト成ル

一金九千九百圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六万六千八百二十五圓此公債証書ノ利子一ヶ年五歩金三千三百四十一圓廿五錢トナル

右比較九千九百圓ノ方利子九拾一圓廿五錢ノ過ト成ル然ル片ハ一万圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナス故ニ九十圓廿五錢ヲ引去リ利子三千二百五拾圓ニ適當スル公債証書

ヲ下渡ヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債証書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云モ其發行スル種類ハ左ノ如シ

五圓 拾圓 廿五圓 五拾圓 百圓 三百圓 五百圓
千圓 五千圓

第五條 前條公債証書ヲ附與スル片ニ當リテ公債証書ニ未滿ノ端金ハ都テ通貨ニテ相渡スヘシ

第六條 此公債証書ノ元金ハ五ヶ年間之ヲ据置キ六ヶ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ヶ年間ニ悉皆之ヲ消却スヘシ

第七條 此公債証書發行ニ付テノ順序其外ハ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債証書發行條例ノ通リタルト心得ヘシ

第二十章 金札引換無記名公債証書條例

第四拾八號布告 明治十六年十二月廿八日

金札引換無記名公債証書條例左之通制定シ明治十三年十月十四日
七號布告金札引換公債條例第三條ヲ停止ス

金札引換無記名公債証書條例

第一條 金札引換無記名公債証書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消
スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス
此公債証書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモ
ノトス

第二條 此公債証書ハ望人ノ申込ニ任セ大藏卿隨時之ヲ發行ス
ルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ申込ヲ拒ムコトアル
ヘシ

第三條 此公債証書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ三

種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス

第五條 此公債証書ハ証書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定
ム此証書ヲ引受ケンコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行本支店又
ハ代理店へ申出ヘシ

第六條 此公債証書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債ノ元金ハ其証書交付ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年
ヨリ向フ三十ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還
ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示
スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ
拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ
行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

金札引換無記名公債証書條例

満期ニ至リ償還ノ証書ニ属スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債証書ヲ多額所持

スル者拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セズ其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フ

金札引換無記名公債證書條例

モノトス

第十五條 此其公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過クルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

第二十一章 起業公債證書發行條例

○甲第十三號大藏省布達明治十一年五月一日發

此公債ハ明治十一年^四太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 公債證書ク元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス

第一節 此公債ノ元高ハ一千二百五十拾万圓ニシテ年六分^六ノ百分ノ利付トシ其元金ハ二ケ年間据置キ三ケ年目(即チ明治十三年)ヨリ向二十三ケ年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲グル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スヘシ而シテ其利息ハ(第三條第二節ノ但書並ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ニ皆濟ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月

ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ 本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ

但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分利ノ息月割^{抽籤}十五日以前ニ係ルニ前月マテノ分十六日以後ニ係ルハ半ケ年分下渡スヘキモノトス

第二節 此公債證書面ノ金高ヲ五百圓百圓五十圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス

但本文ノ利札ハ每半年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切取リ引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 公債證書授受買等ノ示ス

第一節 此公債證書ハ(第六條ニ掲グル記名ニ變改スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サス故ニ書換又ハ管廳ノ檢印ヲ受クル等ノ手數無クシテ授受賣買等(外國人ヲ除ク外)各自ノ隨意ヲ

ルヘシ

但質入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タル
ヘシ

第三條 募債券ニ出金等ノ
手續概畧ヲ示ス

第一節 此公債ノ募集方并ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀
行并ニ三井銀行ヘ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續、
引受ノ實高、期限、場所及ヒ利息并ニ元金ノ渡方其他必要ノ件
々ハ右兩銀行本店若クハ支店及ヒ其取引仲間等ヨリ追テ新聞
紙等ヲ以テ廣告ニ及フヘシ

第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受
方申込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割拂ヲ
以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ廣
告スヘシ

但第三割拂迄ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月
割ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ

第三節 右四度ノ内手付金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第
一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假証券ヲ與ヘ第二割拂ニ
ハ新假證券ヲ以テ舊假証券ト書換ヘ第三割拂ノ拂込ニ濟シニ
至リ此公債證書ヲ假証券ト引換ニ交付スヘシ

但公債証書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期
ノ時日ニ先ツテ入金スル者ハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル
利息月割ニ拂込十五日以前ニ係ルハ半ケ月分十六日以後
入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初
度ノ手付金相濟ニ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定

期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシ
メテ返與セサルヘシ

第六節 出金未タ皆濟ニ至ラス此公債証書ヲ受取ラサル以前タ
リトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假證券ヲ授
受賣買質入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルヘシ尤
モ授受賣買ノ節ハ其證券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住
所ト讓渡人(又ハ買主)ノ姓名住所トヲ記載シ且調印スルモノ
トス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルハ
本條第五節ノ通りタルヘシ

第七節 若シ申込ノ出金高募集スヘキ見込高ヨリ超過スルハ
該銀行ニテ之ヲ總體ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ
其手付金ノ剩利トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤モ

其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スル
モアルヘシ

第四條 抽籤ノ手續
概略ヲ示ス

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ
取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公
債証書(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省
國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以
テ其年ニ拂戻スヘキ証書ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番
號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スヘシ

第五條 証書毀損紛失盜難流焼失
等ノ心得方ヲ示ス

第一節 此公債証書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アルトモ金高
及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク正眞ノ證書タルヲ保認スベキ分

ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲スヘシ尤モ過失ニテ此公債證書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ又ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添テ兩銀行本店又ハ大阪ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該證書面ニ金高番記號ノ部分必ス判然存在シ眞正ノ證書ニ相違ナシト見認ムル分ハ之カ引換ヲ爲スヘシ

但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂スヘシ

第二節 此公債證書紛失盜難又ハ流燒失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有トナリシキノ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置償却年限ノ末期ニ至ル迄該証書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違ナキニ於テハ該證書ニ對シテ積リタル利息元金トモ一同ニ之ヲ拂渡スヘシ

第三節 前節届出ノ後該證書顯出シ而シテ未タ犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知り轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サスシテ受取ノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スヲ得ヘシ

但前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キキハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フコアルヘシ

第六條 記名公債證書ニ變改スル手續並ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス

第一節 此公債證書ハ授受賣買等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレトモ所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名証書ト爲スヲ得ヘシ其變改ノ手續並ニ規則等左ノ如シ

第二節 無記名證書ヲ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非
ス又證書本紙ニ記名スルニ非スシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ
之ヲ定ムルモノトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八
十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支
店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ（支店并ニ取引仲
間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ）請願人ノ姓名住所並ニ入
用證書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名極印濟ミノ證書
ヲ（記名紙相添ヘ）受取り之ヲ本人ヘ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ
管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クヘシ

第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該證書ニ記
名タル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ヘ送
付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管廳ニ

テハ該證書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年
月日等ヲ簿冊ニ登記シ該證書ニ記名紙ヲ糊附シ該廳ノ割印ヲ
爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ繼印及ヒ公債掛ノ檢印
ヲ捺テ再ヒ之ヲ所有主ヘ附與スヘシ

但一日無記名證書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メノト欲スル
者ハ該證書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ
添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ願書ノ受取書ヲ渡
シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟ミノ證書並ニ記名紙ヲ
受取り成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ附與スルノ手續ヲ爲ス
モノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏省
ヨリ受取り置クモ適宜タルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名證書ヲ記名證書ニ變改シタル上ハ之
ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流燒失等ノ

廉ハ明治八年（五月太政官第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例第六條七條八條九條十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債證書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並ニ不用ノ廉々左ノ如シ

但元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債證書ト同様ナルモノトス

右條例第六條ヨリ第十條迄ノ中ニ「新舊公債證書共」並ニ「新舊公債證書」トアルハ都テ「此記名公債證書」ト改ム

同第六條第一節但書ノ「其都度大藏省へ届出ヘシ」ヲ「置クヘシ」ニ改ム
同條第二節ニ「證書裏面へ形ノ通り裏面及ヒ同條第三節ノ「證書裏面へ形ノ如ク裏面」ハ都テ「記名紙へ末ニ附スル雛形ノ通り」ト改ム

同條第三節ノ「大藏省へハ云々」ノ十五字ヲ「置クヘシ」ニ改ム

同條第四節ノ但書ヲ削除ス

同條第五節並ニ第七節八節ノ「證書へ割印」ハ都テ「記名紙へ割印」ニ改ム

同條第七節ノ「且大藏省へハ一月分翌月五日迄ニ云々」ノ二十七字ハ不用

同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スヘシ」ニ改ム

同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字並ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス

同條同中節ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム

同第七條第一節ノ「其所持人へ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人タリトモ其持參人へ（外國人ヲ除クノ外）相渡スヘシ」ニ改ム

同第八條割註ノ「二十一」字ヲ「此公債證書記名紙繼」ニ改ム

同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘粹」ニ改メ「證

書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム

同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス

同條第二節ノ「地方官廳ニテハ即チ右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字

ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム

同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條 證書贗造等ノ處分ヲ示ス

第一節 此公債證書（無記名記名トモ）ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ

又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊附ニスル等ノ事ヲ爲スヘカラス若シ犯

ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節 此證書ヲ贗造シ又ハ入チシテ贗造セシメ又ハ入ノ贗造

スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用シ又ハ証書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ入チシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコアレハ利息及ヒ償却年限ヲ

除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スヘシ

第二節 右增補改正等アルルハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

第二十二章 中山道鐵道公債證書條例

第四拾七號布告 明治十六年十二月廿九日

中山道鐵道公債證書條例左ノ通制定ス

中山道鐵道公債證書條例

第一條 中山道鐵道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下美濃國大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス

第二條 此公債證書發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行スルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ定ムルモノトス

第三條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

第五條 此公債證書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルハ其超過高ニ比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

中山道鐵道公債證書條例

満期ニ至リ償還ノ證書ニ属スル利子ハ償還ノ月マデノ分ヲ拂渡スモノトス

此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取リ之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債証書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦

計算ノ割合ヲ爲メ東京横濱居住人ニテ此公債証書ヲ多額所持スルモノ拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并証書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其証書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ証書ヲ發見セズ其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該証書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ

其証書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フ
モノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店
又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其証書
面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ認認シ
得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ
本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金
高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償
還方總テ亡失証書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五
ケ年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金

償還年限ヲ除ク外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ
右奉 勅旨布告候事

爲換手形約束手形條例

第二十三章 爲換手形約束手形條例

明治十五年十二月十一日 第五十七號布告

爲替手形約束手形條例別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

爲替手形約束手形條例

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ニヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一 金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スコトヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ

支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キコトヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者

爲換手形約束手形條例

トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ

爲替資金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

第五節 保證

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂メ保證セシムルヲ得

爲換手形約束手形條例